

《シリーズ企画》

神谷傳兵衛 没後100年



問 文化芸術課(牛久シャトー内)
☎874-3121

日本を代表する実業家のひとりであり、浅草「神谷バー」の創業者として知られる神谷傳兵衛(1856〜1922)。その傳兵衛が明治36(1903)年に現在の牛久市に開設した日本初の本格的ワイン醸造場が、「牛久シャトー」です。郷土の誇りである牛久シャトーを創立した傳兵衛が没して今年で100年。その節目を記念した特別展「神谷傳兵衛と牛久シャトー」が開催されるにあたり、傳兵衛の業績を振り返り、ゆかりのものをシリーズでご紹介していきます。

神谷傳兵衛ってどんな人？

幼少期から働きに出た苦勞人

神谷傳兵衛は、三河国幡豆郡木島村(現在の愛知県西尾市一色町)出身の実業家です。安政3(1856)年、代々名主なぬしを務める家の6男として生まれましたが、家が没落したため、傳兵衛は幼いころから桶製造の見習いや商業見習いとして働きに出ていました。11歳で商人として独立するも、事業に失敗。全財産を失ってしまいます。そんな中、明治6(1873)年、横浜でフランス人が経営するフレッレ商会酒類醸造場で働き始めた傳兵衛は、あるとき病気に罹り、命に関わるほど衰弱しました。その際、フランス人の主人が勧めたワインにより体調を回復させ、身をもってワインの滋養効果を知ることになりました。

蜂印香竈葡萄酒の成功

明治13(1880)年、

傳兵衛は、東京浅草に酒の一杯売り家「みかはや



銘酒店」(後の神谷バー)を開業。さらに輸入ワインにハチミツや漢方薬を加えた日本人好みの甘い葡萄酒を製造し、明治19(1886)年に売り出した「蜂印香竈葡萄酒」は全国的な人気商品となりました。

牛久シャトーの誕生

明治30年(1897)年、ブドウ栽培やワイン醸造を学ぶためにフランスのボルドーに留学していた婿養子の神谷傳蔵が帰国すると、茨城県稲敷郡岡田村(現在



の牛久市)に農地を取得。フランス・

ボルドー原産のブドウ苗6000本を移植し、「神谷葡萄園」を開園しました。また、園内にワイン醸造

施設を建設、明治36(1903)年に「牛久醸造場(現在の牛久シャトー)」を竣工し、日本で初めてブドウ栽培から

ワイン醸造・瓶詰・出荷までの工程を一貫して行いました。そうして作られた「牛久葡萄酒は、イギリスの万国博覧会やフランスの博覧会などで数々の賞を受賞。内外に高く評価されました。

ワイン事業以外にも多くの会社の経営や文化・慈善事業にも精力的に取り組んだ傳兵衛は、大正11(1922)年、66歳で死去。災害の際には即座に救済活動を行うなど、生涯を通して社会のために貢献しました。





日本遺産認定および
神谷傳兵衛没後100年
記念特別展示

神谷伝兵衛と 牛久シャトー

8月27日(土)～

令和5年3月31日(金)

【開催会場】牛久シャトー
(牛久市日本遺産ビジターセンター)
・神谷傳兵衛記念館

【主催】ワイン文化日本遺産協議会

日本遺産・牛久シャトーを会場にして神谷傳兵衛の業績を振り返り、甘味葡萄酒の誕生から国産ワインへの挑戦の軌跡を辿りながら日本ワインの歴史と魅力を紹介いたします。



「神谷傳兵衛と
牛久シャトー」
図録販売

【販売開始】
8月27日(土)～
【販売場所】
牛久シャトー
ショップ

次号予告

広報うしく(1日号)で 神谷傳兵衛没後100年 記念コーナー開始

次号から、広報うしく(1日号)で神谷傳兵衛の業績やゆかりの資料などを紹介するシリーズを掲載していきます。ぜひご覧ください。

comment

「神谷傳兵衛没後100年記念特別展示」の開催によせて

(一部抜粋)

ワイン文化日本遺産協議会会長 牛久市長 根本洋治

牛久シャトーは牛久市のランドマークとして、訪れる人にとっては象徴となる建造物であり、住む人々に愛され、誇りを与え続けてきました。国指定重要文化財、近代化産業遺産として歴史的な価値があり、日本ワインにまつわる日本遺産の物語があり、文化的・芸術的にもすぐれています。戦争、震災と多くの困難を乗り越え、今日も美しく堂々と建ち続けているのは、大切な宝物として後世に継承しようと、牛久シャトーを支え続けてくださった皆さまの想いの賜物です。この郷土の誇りである牛久シャトーを創立した神谷傳兵衛の没後100年を記念し、特別展を開催します。展示資料を通して、日本ワインの馥郁たる香りとともに、先人の情熱と息吹を感じていただければ幸いです。

神谷商事(株)代表取締役 神谷 直彌

当社創業者の神谷傳兵衛没後100年の節目の年に、貴重な資料が展示される特別展が開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

私の祖先でもある初代神谷傳兵衛は、酒造業や飲食業のほかにも多種多様な事業を展開した実業家ですが、牛久シャトーとともに当社が経営する日本初の西洋バー「神谷バー」の創業者としてご存じの方も多いと思います。神谷バーは浅草区花川戸町にて「みかはや銘酒店」として始まり、大正10(1921)年に落成した神谷ビルは、関東大震災、太平洋戦争、東日本大震災など幾多の苦難にも耐え、平成23(2011)年に国登録有形文化財に登録されました。神谷バーでは、時代や人が変わっても、飾らず、気取らず、変わらない「下町の社交場」の雰囲気大切にしています。東京スカイツリーが見下ろす吾妻橋の袂で、今日も皆さまのお越しをお待ちしております。

オエノンホールディングス(株)代表取締役社長 西永 裕司

神谷傳兵衛没後100年の節目の年に、牛久シャトーにおいて特別展が開催されること、心よりお祝い申し上げます。これも牛久市様と当社が、牛久シャトーおよび重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設の活用について包括連携協定を締結した大きな成果であると自負しているところです。2024年に創立100周年を迎える当社の原点は、初代神谷傳兵衛が明治13(1880)年に開業した「みかはや銘酒店」にまで遡ります。2020年代に入り、これまで以上に世の中が大きく変化していますが、次の100年も、持続的な成長を続けられるよう企業活動を行ってまいります。また、日本遺産である牛久シャトーについては、引き続き牛久市様ご協力のもと、次世代への継承が確実に行われるように努力してまいりますので、今後とも当社ならびに牛久シャトーへ一層のご支援をお願い申し上げます。

